

● 安房がふれた一代一度の儀式

明治天皇は慶応三年（一八六七）皇位を継承し、翌年即位の礼を行います。しかし、明治三年（一八七〇）に催されるはずであった大嘗会（大嘗祭）は、内政の状況などから明治四年に行われませんでした。大嘗会では宮中で選定された悠紀国・主基国の新穂が供えられます。明治の大嘗会では悠紀国は甲斐国巨摩郡上石田村（現・山梨県甲府市）、主基国は安房国長狭郡北小町村（現・鴨川市）が定められました。



3 大嘗祭記十

明治六年（一八七三）

宮内公文書館蔵

「大嘗祭記」は、明治天皇の大嘗祭に関する記録をまとめたものです。写真は、安房国長狭郡が主基国に決定したことを民部省から当時の藩へ出した達書の写しです。

（達書…特定の組織などに対して命令を伝えるもの）



4 明治天皇大嘗祭御齋田

主基之地写真

大正／宮内公文書館蔵

主基齋田址は、大正期に公園として整備され、記念碑が建てられました。この写真は「明治天皇紀」を編修していた宮内省臨時帝室編修局に、地元から寄贈されたものです。

● 最初の行幸 —— 習志野原の誕生

明治以降、各地への行幸が頻繁に行われます。千葉県へは明治六年（一八七三）大和田原での近衛兵の演習天覧のための行幸が最初です。この行幸後、大和田原は「習志野原」と命名され、練兵場が置かれました。「習志野原」の名前の由来については諸説ありますが、明治天皇の勅命によって名付けられたことが、残された資料からわかります。



5 御宸筆

明治六年（一八七三）

宮内公文書館蔵

演習から還幸した明治天皇は、近衛局長官陸軍少将篠原国幹を召し、宮内卿徳大寺実則から大和田原の名称を「習志野原」とし、陸軍の訓練場（練兵場）とする勅旨を伝えました。その際に渡された御宸筆と伝えられています。

（行幸…天皇が外出されること）

（天覧…天皇をご覧になること）

（御宸筆…天皇の直筆）

（還幸…行幸からお帰りになること）

（勅旨…天皇の命令）

6 絵葉書 明治天皇駐蹕之处の碑

昭和六年（一九三一）以降

千葉県文書館蔵

大正六年（一九一七）、明治天皇の明治六年の露营地と推定されたあたりに、陸軍省によって建てられた碑を絵葉書にしたものです。

（駐蹕…天皇の行幸の途中、一時乗物を止めること）